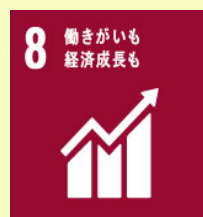


# ワーケーション×SDGs

## 富士市における ワーケーションを活用した 地域活性化



### キーワード

ワーケーションプログラム、産官学協働、関係人口の増加、地域活性化、富士市

### ○取り組んだきっかけ

富士市は2020年7月「テレワーク先進都市宣言」を行い、その実現に向けて2021年3月、テレワーク推進ロードマップを作成しました。目標値を設定し、市内事業所のテレワーク導入促進や首都圏からのテレワークを実施する企業の誘致、テレワーカーの受け入れ等につなげるプロセスを提示しています。その一環で「令和3年度ふじのくに地域・大学コンソーシアム事業ゼミ学生等地域貢献事業」の指定課題として「テレワークを活用した魅力あるワーケーションプログラムの作成」を提示いただきました。

### ○活動の目的

「テレワーク先進都市」を目指す富士市の施策の一環として、首都圏の企業、ワーカーを対象としたワーケーションプログラムに関して、若者の発想力と行動力を活かした企画・運営・成果発信を行うことで、地域活性化に貢献することを目的に実施しました。

### ○具体的な内容

本事業は、2022年度小豆川ゼミ3年 6名、2年 19名の計25名で取り組みました。

まず、全国各地で展開するワーケーションの基礎知識や他地域の動向を分析し、ディスカッションを行ったりアドバイスをいただきました。

学生は個人対象・企業対象・交流会グループに分かれ、富士市商業労政課、シティプロモーション課、富士商工会議所のご支援もいただきながら、富士市の魅力を盛り込んだ1泊2日の「ワーケーションモニターツアー」のプログラムを企画しました。2022年11月22日・23日には、モニターツアーを実施。学生はアテンド、運営全般を関係者の方々と一緒に行い、実施後、「企画、運営面」「モニターツアーの内容面」に関する課題、改善点や対策、さらに富士市への4つの提言をまとめました。

本研究の成果は本学ホームページ、ふじのくに地域・大学コンソーシアムFacebook、富士市ホームページ専用サイト、JOINX新聞等さまざまなメディアで発信し、2月11日（土）には、ふじのくに地域・大学フォーラムで代表3名が成果を発表しました。

### ○期待される効果

学生は、調査力、交渉力、多様な主体との連携力・コミュニケーション力、プレゼンテーション力、不測事態や状況変化に応じた対応力を修得することができました。

モニター参加者のアンケートでは、全員から高評価をいただきました。

課題提出者の富士市産業政策課からは、「学生のアイデアや感性が活かすことで富士市の魅力が十分に伝わったものであったと感じています。このプログラムを活かし、企業やワーカーの誘致及び移住を今後も進めていきたい」との講評を頂戴しました。

本プロジェクトの成果が少しでも富士市の関係人口を増やし、移住・定住に貢献できれば一同大変うれしいです。



※本事業は、「令和4年度 ふじのくに地域・大学コンソーシアムゼミ学生等地域貢献推進事業」の助成を受けて令和4年度富士市の「内閣府デジタル田園都市国家構想推進交付金」採択事業と連携を行いながら実施しました。

教員名 小豆川 裕子

所属学部・学科 経営学部・経営学科

職位 教授・学部長



連携先

富士市 産業政策課（課題提出者）、商業労政課、住宅政策課、シティプロモーション課  
コニカミノルタジャパン(株)、コニカミノルタ静岡(株)  
(株) JOINX、富士商工会議所